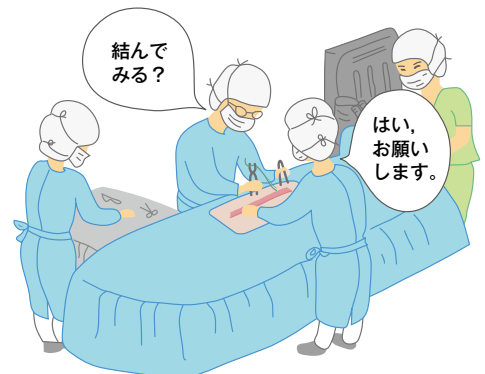


第7回 結紮(糸結び)

はじめに

結紮(糸結び)は外科医に限らず、どの科の医師にも必要な手技である。たとえば、ちょっとしたキズの縫合、止血、中心静脈栄養カテーテルの固定など、当直時や通常内科医が行う処置の際にも役に立つ。

近年、止血や縫合にはいろいろなデバイスが開発されているが、それでもなお、手による結紮はその基本をなすものである。外科系を志すなら毎日練習する必要があるし^{*1}、また、内科系を目指す医師でも、一度は学習しておいて損のない基本手技である。



準備をしているものに幸運は訪れる

* 1 外科手術に入る際、手術場の看護師さんをお願いすれば術後に余った糸をもらえるはず。

結び方の種類

1. 単結紮 (single knot)

1回結びのことで、すべての結紮の基本となる。単結紮を繰り返して、実際の結紮を行う。単結紮を行うには後で述べるように、いろいろな方法がある。

2. 男結び (square knot) ^{* 2}

第一結紮と第二結紮を反対方向に行う結紮法で、ほどけにくく、コンパクトで、通常最も頻繁に用いられる結紮法である。



結び目が上下の鏡面対称になっている。

* 2 男結び、女結びの名前の由来は着物の帯の結び方にあるらしい。

3. 女結び (granny knot)

第一結紮と第二結紮を同じ方向に行うもので、ほどけやすいという欠点があるが、結んだ後にさらに締め付けることができるため、状況によっては役に立つ結紮法である。この場合は3度目の結紮を加える必要がある。



4. 外科結び (surgical knot)

第一結紮のとき、糸を2回からませる方法で、第二結紮を行う際、第一結紮がゆるまない利点がある。



単結紮の方法

1. 両手法

結び目をつくるのに両手の動きを使う方法で、比較的広い空間を必要とする。主に使う指により、(1) 中指と薬指を使う方法、(2) 示指法、(3) 拇指法、がある。

(1) 中指と薬指を使う方法

途中、中指と薬指で糸を把持する方法。